

# 親子で元気に運動遊び



平成28年1月31日(日)ゆめあるて



第660号  
 発行人 ● 豊丘村公民館 唐澤克己  
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (2月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,378人  
 女 3,481人  
 総人口 6,859人  
 世帯数 2,122戸

昨年十二月から今年の一  
 月まで、柿外土在住の写真  
 家・宮下正弘さん(六十二  
 歳)の写真展が交流学習セ  
 ンターゆめあるてのオーブ  
 ンスペースで開かれました。  
 宮下さんは写真歴四十二年  
 長野県広報コンクールで二  
 年連続最優秀賞に輝いた広  
 報「まつかわ」の写真も手  
 掛けておられます。このほ  
 ど開かれた個展のテーマは、  
 十二月が「スナップ・人の  
 素顔」、一月は「風景・景を  
 慈しむ」で、人と自然を劇  
 的に表現されました。

昨年より展示しておりま  
 した初めての写真個展も、  
 人物スナップから風景まで  
 選んだ作品は五十点を超え  
 た事に、今まで撮り貯めて  
 来たデジタルでの区切りを  
 つける事ができました。  
 最近のスナップでは子ど  
 もたちを数多く狙います。隠  
 さない表情と瞳の輝きに魅  
 了され、ありのままの姿を  
 撮るため、瞬間をひたすら

待ち、そして子どもの世界  
 にズッポリ入り込んで行く  
 自分が居るのです。風景で  
 は無駄を極力排した構図と  
 して、見やすく美しいもの  
 を発見しながら臨みます。  
 今も、更にこれからも生  
 涯テーマとしているものに  
 青(藍)という色の追求が  
 あります。色彩の豊かな中  
 で唯一心休まる色と考える  
 からです。気負わず焦らず  
 青の持つ魅力を探して歩  
 ゆつくりと時間をかけて。  
 これが自分探しの人生と考  
 えています。

## 青の持つ魅力を探し ゆめあるてで宮下正弘氏写真展



輝くスマイル 園児が朝の光の中、寒さも気にしないで集まって来た

## 男女共同参画推進事業 第14回さんかくセミナー イクメン講座を開催

次回開催に期待の声が

さんかくセミナー『イク  
 メン講座』が一月三十一日  
 に開催され、七組の親子が  
 参加した。「パパ講座はお  
 父さんと子どもが体を使っ  
 て元氣いっぱい遊び、「ママ  
 講座」ではリラックスマ  
 ガを体験し、日頃の疲れを  
 癒やした。次回を期待する  
 声も多く、今後継続して講  
 座を開催する予定。

平衡感覚の育成。日常の遊  
 びが子どもの成長や将来の  
 活動を見据えたものになれ  
 ばという酒井さんの強い思  
 いを感じる内容でした。  
 活動の最初に、酒井さん  
 は、お父さん達に子どもの  
 足裏マッサージをしてもら  
 いながら、「足の形や土踏ま  
 ずの様子は大丈夫ですか?  
 たまにはじっくり観察しま  
 しょう」と話されました。  
 一時間半ほどの活動の中で、  
 お父さんとお母さんが同じ  
 思いになって子どもの成長  
 を喜び、健康状態を見守る  
 ことの大切さを教えていた  
 だいたように感じました。

に参加しました。この講座  
 はパパ講座とママ講座の二  
 本立てとなっています。マ  
 マ講座ではリラックスマ  
 ガを体験しました。ヨガとい  
 うと複雑なポーズをするよ  
 うなイメージを持つ方も多  
 いと思いますが、リラック  
 スヨガは心地よ  
 く感じる姿勢で  
 行います。アロ  
 マの香りを楽し  
 みながら心身と  
 もに癒される時  
 間となりました。  
 パパ講座では広  
 い部屋で思い切  
 り体を動かすこ  
 とができ、親子  
 で楽しめたよう  
 です。家での遊  
 びの参考になり  
 ました。普段は  
 子どもと過ごす  
 時間が多い中

で、この講座に参加するこ  
 とで自分の時間を作る機会  
 を与えていただき感謝して  
 います。家族みんなで楽し  
 める講座ですので、次回開  
 催される際には多くの御家  
 族に参加して欲しいと思  
 います。



ママ講座は話題のリラックスヨガを体験

今後、各地で多くの用地  
 取得を経て工事が始まる。そ  
 れは地元の人々の多くに影響  
 を及ぼすものであり、禍根  
 を残さぬ様に望む。  
 (吉川土郎)

JR東海による中央新幹  
 線(リニア新幹線)の南ア  
 ルプストーン工事が、昨  
 年から山梨県側で開始され  
 た。いよいよ大工事が本格  
 化する。  
 村内でも徐々に、具体的  
 な説明が会社から聞かれる  
 ようになった。トンネル坑  
 口をひかえる小園地区では、  
 当初の予定を変更しての工  
 事用斜坑と資材置き場の開  
 設、そしてトンネル排出土  
 の処分地の説明がされた。  
 後者については、地元の要  
 望により地区内を流れる地  
 蔵沢川上流の二ヶ所の沢を  
 埋め立てる計画である。当  
 該の沢は治山工事が行き届  
 かず倒木等により荒れた状  
 態である。埋め立て工事で  
 整備されれば安全、といっ  
 た意見の一方、沢に五十一  
 万mもの土砂を入れれば万  
 一の崩落の際は下流に甚大  
 な被害を出す、と危険視す  
 る声もある。また「地元  
 の要望」とは言うものの、肝  
 心の地蔵沢川流域住民や地  
 権者の間では事前の話し合  
 いはなく、寝耳に水で説明  
 を聞いた人も多かった。要  
 望を会社に伝えるのは行政  
 側だが、今回の件で、少な  
 からず不信感を持った人も  
 いた様だ。

### 段丘

# たった一言が励ましにもなり悲しみも生む

## 小中学生の「社会を明るくする運動」作文より

昨年七月に実施した「社会を明るくする運動」に関連して、小中学生が作文を書きました。そのいくつかを紹介いたします。今回掲載するのは、それぞれ北小と南小に在籍する二人の生徒の作文です。

鳴澤さんは、生まれてからまだ十年という短い期間の中でも様々な言葉を聞き、様々な気持ちを体験したと述べています。たった一言であっても、それがどんなに相手を励まし、また逆に、どんなに相手を傷つけるかという点で、私たちに貴重な示唆を与えてくれます。

西尾さんは、社会を明るくするためには、言葉遣いに注意すること、お互いに協力し合うこと、あいさつを交わすことの三つが大切だと述べています。どれもだれでもいつでもできるような身近な事柄ですが、気づかずにいるとできずに終わってしまいうそです。ぜひ留意したいものです。

### 一秒の言葉で人の気持ちは変わる

北小五年 鳴澤 楓乃



この世の中に言葉は、いっぱいあります。私は、十年間の中で、勇気をもたらえる言葉、なみだがこぼれてしまう言葉、そんな言葉を言われて、いろんな気持ちになつた事が何度もあります。私以外の人もあると思います。道徳の授業では、人が嬉しくなる言葉、人が悲しくなる言葉、それを花束言葉、ナイフ言葉に分け、クラスでは花束言葉をふやそうとみんながんばろうとしました。

この道徳の授業をするまで、クラスの人たちは、たった一つの言葉で人の気持ちが変わるなんて知らなかった人もいたでしょう。クラスでの道徳の授業では、人が悲しくなる言葉、嬉しくなる言葉はどんな言葉なのかをクラス全員で考え合いました。どちらもたくさん言葉が出てきました。それをクラスでは、嬉しくなる言葉を花束言葉にし、悲しくなる言葉をナイフ言葉にしました。道徳の授業をした後のクラスを見ていると、前までは、あたりまえの言葉のように、ナイフ言葉を使っていた人も、今では、花束言葉をたくさん言うようになり、ナイフ言葉を言う人もだんだん減ってきました。

一言が、今の社会を変えるかもしれない。この言葉が、明るく、悪いことのない社会を産み出すかもしれない。たった一つの言葉で勇気もらい、心が強くなる。たった一つの言葉で、気持ちが嬉しくなり、幸せを感じる。「言葉それは人の気持ちを次々と変えてしま、社会をどんどん変えてしまおうかもしれない。だが、それが勇気をふりしぼった言葉が未来の社会を明るくするかもしれない。」私にとつてたった一つの言葉とは、人を悲しませる言葉よりも、人を明るくしたり、人を幸せにしてくれる言葉の方が多いと思います。なので、これからは、よりよい社会になるように、「言葉」を今よりも、世界中の人が大切にしてくれると、幸せがいっぱいになると思っています。何かが「言葉」を大切にすることも、意味はあっても、みんなが「言葉」を大切にしなければならぬと思います。だから、私も明るい社会をつくれるように、たった一つの言葉をみんなと大切にしていきたい。たった一つの言葉を大切にしていけば、きっと社会は明るくなります。

### 社会を明るくするために

南小五年 西尾 大和

ぼくが社会を明るくするために必要だと思うことは、三つあります。



一つ目は、言葉です。言葉は優しい言葉もあれば、悪い言葉もあります。ほんのちよつとであっても、わがざとでも、その言葉で大切な友達をなくしてしまうかもしれない。だから、そんないやなことにならないように、「この言葉は、言っていないのかな」と、よく考えてから口に出す。そんなちよつとの気遣いが、社会を明るくするんだと思います。

二つ目は、協力です。協力すると信頼関係やきずなが強くなると思います。でも、仲間の中で一人でも協力しない人がいると、「あの人は、やっていない。」と思つて、協力する人がどんどん少なくなつてしまします。それをなくすためには、協力しないでいる仲間に、優しい言葉で注意してあげれば、「ちよつとやってみよかな。」と思えるので、協力する人が増えると思います。優しく注意することで、社会を明るくできるんだと思います。

三つ目は、あいさつです。よく、「あいさつで社会を明るく」という標語やポスターを見て、「そんなのうそだろ。」と思う人もいるかもしれません。でもあいさつをする、ぼくは気持ちが晴れば、れして、なんだかすっきりしました。おうちの人や、

地域の人のあいさつをしてみてください。一人ぐらしの人は、自分に、「おはよう。」と声をかければ、気分がよくなると思います。きつと気持ちが晴れるはず。この三つは、大切な友達や家族がつながることになります。家族や友達にひどい言葉を言わない。協力することで友達とつながっていく。そしてあいさつだって地域のひと、つながる。みんながつながっていくから、この三つの目標は社会を明るくしていきけるんだと思います。友だちにいやなことをしたり、言ってしまったらあやまる。いけないことをしている人がいたら注意をする。そして、同じことが二度とないように気をつけていく。そうすることでいじめや差別だつてなくなると思います。ぼくは、言葉・協力・あいさつの、三つを大切にしたい。

## 常に前向き 世紀を跨ぐ

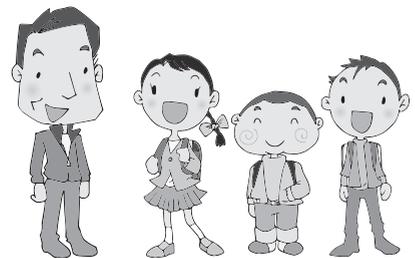
シリーズ「元氣な高齢者」⑮



山本 春子さん 九十九歳 北市場三在住

「今年の三月に満百歳になります」と明快に語ってくれた。とても百歳近い高齢者とは思われない応答に最初から度肝を抜かれた。葛島（現中川村）のご出身で十人きょうだいの二番目に生まれたが、長女が幼く亡くなったために、妹や弟の面倒をみ、時にはその子らを背負って学校に通ったこともあった。小学校を卒業し、近くの製糸工場に働きに出た。工場から帰っては弟妹の世話をするなど懸命に手伝いをしたが、そ

ら、この三つの目標は社会を明るくしていきけるんだと思います。友だちにいやなことをしたり、言ってしまったらあやまる。いけないことをしている人がいたら注意をする。そして、同じことが二度とないように気をつけていく。そうすることでいじめや差別だつてなくなると思います。ぼくは、言葉・協力・あいさつの、三つを大切にしたい。 て、意識しながら生活をして、社会を明るくしていききたいです。



文責 桐崎 長一 日下部富次

# 家でも楽しく作りたい

## 第七分館料理教室

第七分館分館長 高田晴仁

二月七日(日)、ゆめあるての料理講習室において、第七分館の料理教室が開かれました。壬生沢・福島の人たちがゆめあるてで？と思われちゃうのが、設備が充実しているこのところよく使っています。当日は子供六名を含む十七名が集まりました。

講師は役場の栄養士・仁科朋子先生で、作った料理は「ホットケーキミックスを使ったおかずクレープ」と「簡単！オニオンスープ」でした。おかずクレープは、ホットケーキミックスと卵、牛乳を混ぜ、フライパンで薄く焼き上げ、食べるときにレタス、ツナマヨ、ウインナー、コーンなどを巻いて食べるというもの。材料は安価で手に入りやすいものばかりです。

小学生や保育園児など小さな参加者にとっては、包丁や火を使う料理は興味津々だったようです。中火で温めたフライパンに生地を入れ、神妙な顔で見守る子どもたち。生地が表面がプツプツしてきたらひっくり返します。何枚も焼いているうちにだんだん面白くなってきたようで、順番が待ちきれない様子でフライ返しを握り夢中になっていました。「スープもできあがり、みんなて試食。食材を手巻いて食べるという食べ方も食事を楽しませてくれます。参加者の感想は？」



上手に焼けるかな？

「子供はきょうだいが多いけれど、料理教室に来ると大人たちが面倒を見てくれるので安心して料理できる」「楽しかったので家でも作ってみたい」「生クリームなど甘いものを入れて、本物のクレープみたいになりたい」

今後ゆめあるてを利用して、分館のみなさんに楽しんでいただける活動を考えていきます。

## こちら資料館 161 三島遺跡から 墨書土器

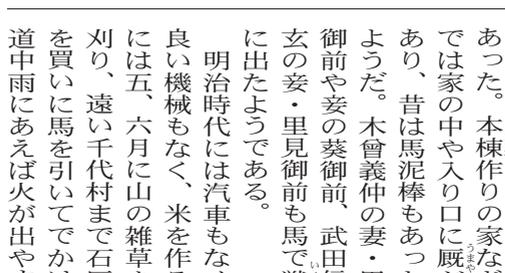
ただ今調査中の地蔵道三島遺跡の出土品から、また新たな発見です。

発掘された土器の破片を洗う作業の過程で、写真のように文字らしきものが書かれた土器破片が2つ出てきました。一つはほんの一部分しかありませんので判読できませんが、写真のものは「光」と読めそうです。

このように墨で文字や記号等が書かれた土器を「墨書土器」と呼びます。豊丘では、河野浜井場遺跡の住居跡から「木」と書かれた

灰釉土器が出ていますので、今回が2例目となります。ただ、文字の意味する事はよく分かっていないようです。座光寺の恒川遺跡からは「官」とか「厨」と書かれたものが出土しており、その器の所属を記したのではないかとされています。今回の墨書土器は方形に礎石が並ぶ平安時代の住居跡から出土しました。平安といっても地方では竪穴式住居が

一般的であった時代です。当時としては特別な構造をもつ建物跡から特別な土器が出てきたと言えます。千数百年の昔、地蔵道のあの地でいったい何が行われていたのか？想像



「光」と読める墨書土器

## 鉄道全国旅歩き 第1回 鉄路入門

北市場三 山本義彦

日本に鉄道が導入されたのが明治五(一八七二)年新橋―横浜間であった。鉄道先進国・英国からの蒸気機関車(以下SL)だった。当時、蒸気は船だけだと思っていた日本人は、陸蒸気と言って驚いたようだ。やがて、大正、昭和と鉄道の黎明期を経て今日に至っている。その間、鉄道の果たした役割は大きく、日本の近代化に貢献した。当時、海を渡るのには船、陸を移動するのは鉄道であったが、やがて航空機と自動車の発達により、この構図は崩れていく。

船は豪華客船によるクルーズ、鉄道も豪華客車で、各種イベントを取り入れて生き残りを図るが、富裕層しか利用できなかったり、若者は車だったり、乗客は限定されよう。今後、都市部を除いてレールはなくなる。すでに三月のダイヤ改正から廃線になった路線があり、さらに廃線予定が多々ある。乗車体験してきたレールが次々と消えていくのは切ない。地方はどんどん過疎化に拍車がかかると共に、鉄道はもはや庶民の足ではない。

一方、廃線や由緒ある車両が引退するラストランには大勢の人々が詰め掛ける。終焉のときだけわれ先にと押し寄せる気持ちがわからない。それは老舗の店舗の閉店の時と同じで、日本人だけの心理か、万国共通なのかわからない。

私が鉄道好きになったのがいつ頃であったかは正確には記憶がない。高校時代に柔道の遠征で長野まで行ったのは一九五四年頃。辰野から中央線のSLに乗って冠着トンネルを通過した時、こんな煙たいものなぞ、もう嫌だと思っただけで、広がります。(資料館主任 唐澤武彦)



現在の豊橋駅前

岡崎は東海道本線の沿線に近く、掘割に陸橋があり、真上から四本のレール「複線」が真直ぐに伸び、そこを客車は無論、貨物列車が何十両も連ねて通っていた。上下線がすれ違う光景は、時の経った今でも鮮明に脳裏に刻まれている。

青年期(昭和三十年代)になって、どうやらこの光景が頭をもたげて来たような気がする。当初は父に連れられ親戚巡りを始めた。裕福ではなかったのでもっぱら貧乏旅行で、親戚ならば、ただ泊まれたため、運賃だけの小旅行で、この時点ではまだ全国の鉄道に乗って見ようなどとは考えも及ばなかった。しかし、その



昭和30年代の東海道本線

昔は天竜川に橋が無くて、田村から出砂原へ船で越すのに馬の荷をおろし、馬も荷物も船に積んで竜東の人も竜西の人も難儀をしたと言いつた。その後、田村の片桐良弥氏たちの努力により初代の吊り橋が架けられ、大衆に尽くされたことは有難い事である。(豊丘村民話集・第2巻、昭和五十二年)より

## 豊丘村民話集 100年前

### 昔の馬

林原 大原浅一

今から何百年前から馬を飼いはじめたか私の知る由もないが、馬は大切な家族であった。本棟作りの家などでは家の中や入り口に厩があり、昔は馬泥棒もあつたようだ。木曾義仲の妻・巴御前や妻の葵御前、武田信玄の妻・里見御前も馬で戦に出たようである。

明治時代には汽車もなく良い機械もなく、米を作るには五、六月に山の雑草を刈り、遠い千代村まで石灰を買いに馬を引いてかけて道中雨にあえば火が出やす

く(注・生石灰は濡れると発熱するため)難儀をされたことだろう。馬は水田耕作ではしる踏み、すき越し、しるかき等に使用され、家に帰っても特別おいしい食物も貰えず一日を過ごした。今とは違い親は七、八人もの子供を育てながら、大金の馬を買い求めるには相当の生活力がなければ買えなかつた。山道運搬には急坂な釣根道も多く、不幸にして転げ落ちたり、馬のつなぎ場が悪くて命を落とすこともあり、近くの道端へ馬頭観世音を建てたが、今後このような不幸の無いように祈って建てたのだろうか。山道



今も村内各所に馬頭観世音が

には人馬の無事を祈って三十三体の観世音様や山の神、馬頭観世音が各所に祀つてある。また、数少ないお医者様も遠い大鹿村まで馬で出張して病人を助けたと伝えられている。部落では馬の手入れをする日を定め、獣医を頼んで爪切りをしたり、灸をすえたり、はなねじをして舌へ針を打って血を出したりした。その場所を血取場とも言った。

文責 壬生雅穂

# 北保育園に7種類の新游具

昨年十一月から始まった北保育園の新游具取り付け工事が終わり、一月十二日には新游具の遊び初め式が行なわれた。園庭には十七種類もの遊具が設置され、毎日、園児たちが競うように遊んでいる。一見独特に見えるこれらの遊具の特徴や、そこに込められた願いについて、子ども課長の北原さんと、保育園係長の松村さんにお話を聞いた。

近年の社会情勢の影響からか、未満児保育を希望する家庭が増え、その受け入れのために北保育園に未満児棟を増設した。その際、古くなっていた遊具もとり替えることになり、保育士の先生方が検討を重ねたという。子どもたちの発達を願う熱い思いもあり、山梨の御勅使南公園や、遊具メーカーへ下見に行ったそうだ。

一般的に、保育園の遊具の三種の神器といえば、すべり台・砂場・ブランコだそうだが、先生方は、最近の子ども達の不器用さを心配していた。身の回りの生活

は、中心の棒との距離によって、回転スピードが変化する。子どもたちは数人で乗っては、スピードを確かめている。

極め付きは築山だ。「作りかけ？」と思ってしまうような、土がむきだしのままの山。登る時には足腰が鍛えられ、頂上からは三輪車で駆け降りる。その制御不能なスピードを楽しむ。なかには、シャベルで築山を崩す子もいるらしい。

先生方の思惑は大当たりし、北保育園の子どもたちは、毎日生き生きと遊んでいる。今度は、中央や南の保育園の子どもたちにもぜひ体験しに来てほしいと話していた。（小池淳子）



## ～シリーズ～ 豊丘の自然

No.148

ノボロギク (キク科)



このコラム、子ども達は読んでくれているだろうか。ノボロギクを紹介しながら考えてみたい。

図鑑には、①ヨーロッパ原産、②明治のはじめに入ってきた帰化植物、③ほぼ一年中、花を見ることができるとある。

さあ、ここに一研究のテーマがあるのだが、そう、ほぼ一年中、

(山田 拓)



インパクトのあるデザインが子どもたちをひきつける

### お知らせ

## 3月19日(土)

# 公民館まつり

第二回公民館まつりを三月十九日(土)の午前九時から正午まで交流学習センターゆめあで開きます。式典では、長年にわたって公民館事業の進展に貢献された功労者の皆様や、各種スポーツ大会において優秀な成績を収められた皆様の

## 俳句

### 短歌

鈍色の雲おさまって寒の木瓜  
静寂の毎日となり松納め  
歳末くじどれも予期せぬ大当たり  
山間に煙棚引くどんど焚く  
竹林のそよぎに初日かがよえり  
生きた分皺に刻みし初鏡  
季を惑ふ地球の自転去年今年  
伊那段丘凜凜として寒天竜  
退職へ一年記す初日記  
天竜川の風まぶしみて初日の出  
北天へ光と影の丹頂鶴

磯辺セツ子  
田中 静  
片桐 洋子  
下平 玲子  
三島 保子  
三島 里子  
木下 真水  
宮下 公  
宮下 純子  
林 恵美子  
丸山 時子  
北原 昭子

花を見ることができたら、だれにでも、できそう。本気でやってみようと思ったら、プランターに二株植えて、観察を始めてみよう。ものすごいことが分かってきますよ。

最後に、名前の由来を書いた。野(ノ)に咲くボロギク(サワギク)。ボロとは花の様子がボロ切れが集まったように見えるから。

ご功績をたたえ、表彰式を執り行います。催しでは、公民館登録グループの皆様は日頃の研鑽成果を披露していただく、活動内容を報告していただく、グループ同士の親睦と交流を図ります。また今回は、ゆめあでのオーブンスペースを活用して文芸グループや絵画グループなどの作品展示も行ないます。詳しくは隣組回覧チラシなどでご確認くださいませよう、お願いいたします。多くの皆様のお越しをお待ちしております。

1月1日から  
1月31日まで(届出分)

子氏名	届出人	自治会
原 夢菜	貴範	上村
佐藤 皇輝	進	小園
屋神 理紗	賢児	地藏道
古田 純也	恭子	林 原
横澤 志優	貴裕	中芝

死亡者	年齢	届出人	自治会
松尾 久司	89	貴文	本村
吉川 昭志	75	昌利	小園
久保田里子	97	善輝	寺垣外
織田原栄雄	91	延子	古瀬
代田 孝子	71	吉のり	中部
林 充子	91	光男	南市場
片桐 良男	71	眞理子	城
木下 刃男	88	豊	奥内
大原 道夫	89	數夫	林原

## 柳

### 〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「写」 菅沼輝美 選

白黒の入学写真セピア色 安田 喜子

年賀状家族写真が笑いかけ 桃沢 健介

軍服の写真反戦語りかけ 福沢 勝美

▼課題「悪」 菅沼輝美 選

成人の祝いどころか悪ふざけ 市沢 照子

悪運も味方に入れる好々爺 久保ひろし

悪童も社会でもまれジェントルマン 林 桃子

軸吟：悪戯をされて器を測られる

▼自由吟 桃澤健介 選

安倍総理本音の改憲強く出す 吉川 療

許されぬ核実験に誇らしげ 原 美風

生きて来た道節くれた指かたる 西元 峯子

軸吟：バス転落若い命は還らない

### 〈八日念〉

縮緬の赤き布地に萩こぼるラベンダーの袋は明治のかおり 河原 梨花

初詣の人波のなか石段をお守り三ヶ買うため登る 吉澤 新子

じいちゃんに感謝の言葉をと目を細む琴奨菊の優しさをみる 岳 道

終るまでと気を張りつめて精を出し市田柿最後の出荷見送る 紅 梅

雪荒れは零下となりて積りゆく軽々紙の如くを掃きぬ 寺元 和美

友と来し湯の宿は山病もつ吾は手とり声をかけられ 松島 八重

〈あしたば短歌会〉

「はつらつ」の忘年会は職員之余興に見惚れ爆笑の渦 壬生 千春

孫らより新しき机贈られぬ わが歌心ここに生まれよ 毛涯百合子

玄関に棒切れ立てて外孫は「捨てないでよ」と念押し帰る 北澤 秀子

空澄みて駒の白雪よく見ゆる絵画のごとく清しき朝 久保田 妙

レンジにて銀杏の殻が弾けたる量の多きか後退りする 大倉 知江

頑なにわが意譲らぬ人ありて老人会の洪茶冷めゆく 福澤 亀人